

3. 専門分野

基礎看護学

- 目標： 1. 看護の対象について理解を深め、看護の概念及び看護の機能を学び、それをもとにして自己の人間観・看護観を発展させる
2. 保健・医療・福祉における看護の役割を認識する
3. あらゆる健康の段階にある対象への看護実践の基礎となる看護技術を習得する
4. 根拠に基づき科学的に看護を展開する能力を身につける
5. 共同学習を通して保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携していくための姿勢を身につける
6. 看護職を目指すものとして能動的に学習する姿勢を身につけ、自ら学び続ける力の基盤となる能力を養う

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準中項目 (キーワード)	教科書 (予定)
看護学概論 I	2	60	山本	看護とは何か 看護師とはどのような職業か、看護の概念について理解する。	1. 看護とは 2. 看護の対象の理解 3. 国民の健康生活の全体像の把握 4. 看護の提供者 5. 看護における倫理 6. 看護の提供のしくみ	健康の定義 健康に関する指標 受療状況 基本的人権の擁護 倫理原則 看護師等の役割 保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律 人間と欲求 対象の特性 家族の機能 家族形態の変化 看護活動の場と機能・役割 生活単位の変化 家族機能の変化 ライフスタイルの変化 看護職に対する法 サービスの提供体制 看護の本質 看護の対象 健康と生活 看護における倫理 看護における連携と協働 安全管理(セーフティマネジメント) 看護の場に応じた活動 保険・医療・福祉の連携と継続看護	看護学概論
看護学概論 II	1	30	角谷	看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術を理解する	1. 看護技術とは 2. コミュニケーション ・患者とのコミュニケーション ・実習での挨拶 3. 感染防止 4. 安全確保の技術	感染防止対策 対象との関係の形成 コミュニケーション 看護業務に関する情報	基礎看護技術 I

看護研究	1	30	角谷	看護の本質を研究のプロセスから理解する。	1. 看護研究とその取り組み 2. 文献検索 3. ケーススタディ		
基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	山東	看護実践としての方法論を学び思考プロセスを理解する	1. 看護理論と人間の捉え方 2. 看護過程の各段階 3. 看護診断とは 中範囲理論の概念 4. 事例展開 5. まとめ	看護過程 基盤となる思考過程	基礎看護技術Ⅰ
基礎看護学方法論Ⅱ	2	60	山東 福原	対象を自立に向けられるようするための基本的知識、安全、安楽をふまえた生活援助技術について理解する	1. 環境調整技術 2. 食事援助技術 3. 排泄援助技術 4. 活動・休息援助技術 5. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 6. 清潔・衣生活援助技術	環境 生活行動・習慣 食事・排泄 活動と休息 清潔と衣生活 療養環境 安楽の確保	基礎看護技術Ⅱ
基礎看護学方法論Ⅲ	2	60	山東 松永 垣内 和久 田 藤田	診療と検査治療の目的を理解し、援助するための技術について理解する	1. 呼吸・循環を整える技術 2. 創傷管理技術 3. 与薬の技術 4. 救急救命処置技術 5. 症状・生体機能管理技術 6. 診察・検査・処置における技術	栄養法 薬物療法 与薬 輸液・輸血管理 採血 呼吸管理 呼吸、循環、 救急救命処置 皮膚・創傷の管理 生体機能のモニタリング	基礎看護技術Ⅱ
基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	山東	対象の身体面、社会面、精神面に対して診断的手法を用いて正確な情報を収集し査定する能力を養う	1. ヘルスアセスメントの意義、ラポールの形成、問診 2. 視診、触診、打診、聴診 3. バイタルサイン 4. 呼吸のアセスメント 5. 循環のアセスメント 6. 腹部のアセスメント 7. 意識・頭頸部、神経系、感覚器系のアセスメント 8. 運動器系のアセスメント 9. 技術テスト	フィジカルアセスメント	基礎看護技術Ⅰ

基礎看護学方法論 V	1	30	山東	対象が健康回復や健康保持・増進のための行動がとれるよう、対象の行動変容、行動強化に関する理論及び支援方法を理解する 原理原則に基づいた看護技術を一連の行為として実施できる能力を養う	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者体験(3年生の演習に参加) 2. 看護活動における学習支援の目的、学習支援のための理論の理解 3. 行動変容、強化のための理論の理解 4. 自助グループの役割と機能、留意点、ファシリテーターの役割 5. 学習支援のための問題の焦点化 6. 学習支援計画のプレゼンテーション 7. ロールプレイ 8. 総合演習 事例に応じた日常生活援助 	学習支援	基礎看護技術 I
基礎看護学実習 I	1	45	山東	看護活動の場及び看護活動、患者について実習を通して体験的に理解を深める	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の理念、役割 2. 医療を支える様々な部門の活動 3. 看護活動の実際 4. コミュニケーション 5. 報告・連絡・相談 		
基礎看護学実習 II	2	90	山東	健康障害をもつ対象を全体的に把握し、必要な日常生活援助を対象の状況に応じて実施するための一連の思考過程について学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状況の全体的な把握 2. 情報収集と分析・解釈 3. 健康上の問題が日常生活に及ぼす影響の理解 5. 看護過程の展開 6. 安全・安楽な日常生活の実施 7. 実施した援助の客観的評価 8. 全体像の把握 9. 看護計画の立案 10. 援助の実施 11. 実施内容の評価 12. まとめ 		

科目名	看護学概論Ⅰ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	山本 奈津枝		単位数（時間）	2 単位（60 時間） 1 年次通年
科目目標	1. 看護とは「どのような実践であるのか」を意識し、看護の対象としての人間とわが国の健康・生活の全体像を理解する。 2. 社会における看護の提供者、提供のしくみについて理解し、看護における倫理について学ぶ。			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1	科目ガイダンス ・序章 看護を学ぶにあたって		講義
	2	第1章 看護とは 看護の本質		
	3	第1章 看護とは 看護の役割と機能		
	4	第1章 看護とは 看護の継続性と連携		
	5	第1章 課題学習とまとめ		
	6	第2章 看護の対象の理解 「人間のこころ」と「からだ」を知ることの意味		
	7	第2章 看護の対象の理解 生涯発達しつづける存在としての人間の理解		
	8	第2章 看護の対象の理解 人間の「暮らし」の理解		
	9	第3章 国民の健康と生活		
	10	第3章 国民の健康のとらえ方		
	11	第3章 国民の健康状態		
	12	第3章 国民のライフサイクルと健康・生活		
	13	国家試験対策		
	14			
	15	まとめ		
	16	第4章 看護の提供者 職業としての看護		講義
	17	第4章 看護の提供者 看護職の資格養成制度・就業状況		
	18	第4章 看護の提供者 看護職者の継続教育とキャリア開発		
	19	第4章 看護の提供者 看護職者の養成制度の課題		
	20	第5章 看護における倫理 現代社会と倫理		
	21	第5章 看護における倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理		
	22	第5章 看護における倫理 看護実践における倫理問題への取り組み		
	23			
	24	第5章 課題学習とまとめ		
	25	第6章 看護の提供のしくみ サービスとしての看護		
	26	第6章 看護の提供のしくみ 看護サービス提供の場		
	27	第6章 看護の提供のしくみ 看護をめぐる制度と政策		
	28	第6章 看護の提供のしくみ 看護サービスの管理		
	29	第6章 課題学習とまとめ		
	30	国家試験対策 学習とまとめ		
評価方法	前期後期試験の平均点で総合評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]看護学概論 医学書院 フローレンスナイチンゲール看護覚え書 日看協出版 看護の基本となるもの 日看協出版 看護六法 新日本法規 国民衛生の動向 厚生統計協会			

科目名	看護学概論Ⅱ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	角谷 典子		単位数（時間）	1 単位（30 時間） 1 年次前期
科目目標	1. 看護実践能力の基礎となる基本的看護技術の要素について理解する。 2. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術について理解する。 3. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する。 4. 看護ケアの質的保証における安全管理の重要性を理解し、事故を未然に防ぐ技術について理解する。			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	看護技術とは 看護技術の特徴と必要な要素 医療・看護におけるコミュニケーション 関係構築のコミュニケーション・効果的なコミュニケーションスキル コミュニケーション障害を持つ人への対応 感染とその予防の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション）と感染経路別予防策 消毒、滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い 針刺し事故防止、医療施設における感染管理 医療安全と医療の質保証・ヒューマンエラーと医療事故 実習場面におけるリスクトレーニング 多重課題への対応 医療安全における医療者と患者の協働の必要性 まとめ		講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験で評価する。			
教科書	系統看護学講座	専門分野	基礎看護学〔1〕 看護学概論	医学書院
参考書	系統看護学講座	専門分野	基礎看護学〔2〕 基礎看護学技術Ⅰ	医学書院

科目名	看護研究		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	角谷 典子		単位数（時間）	1 単位（30 時間） 3 年次通年
科目目標	1. 看護研究のプロセスを理解し、自主的学習態度と研究的態度を学ぶ。 2. 看護の本質を理解し、専門職業人としてのあり方を再認識すると共に、自己の看護観を明確にする。			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1 2 3 4 5 6 7・8 9・10 10 11・12 13・14 15	看護研究とは 看護研究の種類 基礎知識 質的研究、量的研究、データの活用；統計 文献検索の意義と方法 研究における倫理的配慮 ケーススタディとは ケーススタディのまとめ方 看護研究のプロセス 看護研究の進め方、研究計画書 クリティークすること、その方法 基礎看護学実習Ⅱの事例でケーススタディを作成① 基礎看護学実習Ⅱの事例でケーススタディを作成② 看護研究の発表（演題・発表形式・抄録・口演発表） 発表の実際 自己評価・他者評価の実施 関西看護研究大会への参加 理論試験 総まとめ		講義・演習
評価方法	1 回の筆記試験・ケーススタディ評価表・課題提出・出席点で評価する。			
教科書	看護研究 医学書院			
備考	USB の使用、個人情報についての記載に関しては、「個人情報の取り扱い等に関する規定」に準じて取り扱いを行う。			

科目名	基礎看護学方法論Ⅰ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	山東 純子		単位数（時間）	1 単位（30 時間） 1 年次後期
科目目標	1．看護実践における看護過程の意味を理解する。 2．看護過程の構成要素であるアセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価のプロセスを理解できる 3．事例演習により看護過程の展開に必要な技術を習得することができる			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1	看護過程と人間の捉え方 大範囲理論、中期範囲の理論の概念		講義
	2	看護過程とは 看護過程の各段階 看護診断とは 領域と類		講義
	3	事例提示 事例展開のための事前学習提示 事例展開① 疾患の概要と看護、検査データの意味、薬の作用・副作用など		講義・ グループワーク
	4	事例展開② 各領域のアセスメント		グループワーク
	5・6	事例展開③④アセスメントのまとめ		講義・ グループワーク
	7	事例展開⑤ 全体像		講義・ グループワーク
	8	事例展開⑥ 看護診断・共同問題		講義・ グループワーク
	9	事例展開⑦ 優先順位の決定		講義・ グループワーク
	10・11	看護計画		講義・ グループワーク
	12・13	看護計画のまとめ		講義
	14.15	まとめ・記録提出		講義 個人演習
	評価方法	筆記試験 30%、看護過程の演習記録 50%、講義への参加度(途中課題の提出状況及び実践的態度)20%		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 NANDA－Ⅰ看護診断定義と分類 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 看護過程に沿った対症看護 第5版 Gakken 疾患別看護過程の展開 第6版 学研メディカル秀潤社 その他講義の都度提示する			

科目名	基礎看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	福原真記子、山東純子		単位数（時間）	2単位（60時間）1年次前期
科目目標	1. 人間にとっての環境、活動と休息、清潔、栄養、排泄を看護の視点から捉え、対象の日常生活を調整していくための基礎的知識と援助技術を習得する。			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
	1 2・3 4・5 6・7 8・9 10・11 12・13 14・15 16・17 18・19 20 21・22 23 24・25 26 27・28 29 30	基礎看護学実習室オリエンテーション・ボディメカニクス 環境調整の意義 病院における環境 ベッドメイキング【演習】 就床患者のシーツ交換、環境整備【演習】 活動・休息のアセスメントと日常生活動作での体位 安楽な体位【演習】 移動・移送【演習】 食事の意義、栄養のアセスメント 食事介助【演習】 清潔の意義 物品の取り扱い、湯温の維持、拭き方【演習】 手浴、足浴【演習】 洗髪【演習】 寝衣交換【演習】 全身清拭【演習】 排泄の意義 便器・尿器の当て方【演習】 まとめ	山東	講義・演習 講義 演習 講義 演習 演習 講義 演習 講義 演習 演習 演習 演習 講義 演習 講義
評価方法	実践的な態度及び参加度(20%)、提出物(20%)、筆記試験(60%)			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 看護過程に沿った対症看護 第5版 Gakken 疾患別看護過程の展開 第6版 学研メディカル秀潤社 その他講義の都度提示する			

科目名	基礎看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	松永洋子、垣内久美子、和久田幸代、藤田志保子、山東純子		単位数（時間）	2単位（60時間）1年次後期
科目目標	1. 診断・治療を受ける患者の特徴を理解し、必要な援助方法を理解する。 2. 身体侵襲を伴う援助について正しく理解し、安全に実施できる技術を習得する			
科目構成	回数	科目内容	学習方法	
	1・2 3.4 5 6.7 8.9 10 11 12 13 14 15.16 17.18	与薬の目的と種類、適応 注射による与薬時の看護 血の目的と種類、輸血時の看護 モデル人形を用いた注射の実際(皮下注射、筋肉注射)【演習】 モデル人形を用いた点滴静脈内注射【演習】 創傷治癒過程と回復の促進 包帯法の種類と適応 褥瘡予防 包帯法の種類と適応【演習】 検査時の看護 静脈血採血の目的と方法 モデル人形を用いた静脈血採血の実際【演習】 吸引の目的と種類、原理、酸素吸入	講義 講義 講義 演習 演習 講義 講義 演習 講義 講義 演習 講義	

	19	モデル人形を用いた吸引の実際【演習】	演習
	20	酸素の取り扱いの実際【演習】	演習
	21	罨法、マッサージの目的、適応と種類	講義
	22	温罨法【演習】	演習
	23	冷罨法【演習】	演習
	24	一次救命処置(BLS、AEDの取扱い、BVM)、窒息への対応、回復体位	講義
	25. 26	BLS【演習】	演習
	27	経管栄養とは	講義
	28	経管栄養【演習】	演習
	29	導尿の種類、目的と方法	講義
	30	導尿【演習】	演習
評価方法	終講試験(60%)、提出物(20%)、講義への参加度(20%)		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査・救急看護・臨床外科看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 看護過程に沿った対症看護 第5版 Gakken 疾患別看護過程の展開 第6版 学研メディカル秀潤社 その他講義の都度提示する		

科目名	基礎看護学方法論Ⅳ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学	
担当教員	山東 純子		単位数（時間）	1 単位（30 時間） 1 年次後期	
科目目標	1．ヘルスアセスメントを行う意味と重要性について理解する 2．基本的なフィジカルイグザミネーション技術を正確かつ安全・安楽に実施できる 3．フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正しく表現できる。				
科目構成	回数	科目内容	学習方法		
	1	フィジカルアセスメントの意義 ラポールの形成、問診	講義		
	2	視診、触診、打診、聴診【演習】	演習		
	3	バイタルサインとは	講義		
	4	呼吸器系のアセスメント	講義		
	5・6	バイタルサイン測定【演習】	演習		
	7	循環器系のアセスメント	講義		
	8・9	事例を使った演習【演習】	演習		
	10	腹部のアセスメント	講義		
	11	腹部のアセスメント演習【演習】	演習		
	12	意識レベル、頭頸部、神経系、感覚器系のアセスメント	講義		
	13	意識レベル、頭頸部、神経系、感覚器系のアセスメント【演習】	演習		
	14・15	バイタルサイン測定技術試験			
	評価方法	技術評価(20%)、講義への参加度(10%)、提出物(20%)、筆記試験(50%)			
	教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 看護過程に沿った対症看護 第5版 Gakken 疾患別看護過程の展開 第6版 学研メディカル秀潤社 フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院 看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会 その他講義の都度提示する			

科目名	基礎看護学方法論Ⅴ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	山東 純子		単位数（時間）	1 単位（30 時間） 1 年次後期
科目目標	1．対象が健康回復や健康保持・増進のための行動がとれるよう、対象の行動変容、行動強化に関する理論及び支援方法を理解する 2．原理原則に基づいた看護技術を一連の行為として実施できる			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1	患者体験(3 年生の演習に参加)		演習・レポート提出 講義・グループワーク
	2	情報の信憑性と学習支援		
	3	看護活動における学習支援の目的、学習支援のための理論の理解、行動変容、強化のための理論の理解		
	4	自助グループの役割と機能、留意点、ファシリテーターの役割		講義 ロールプレイ 講義・グループワーク
	5	学習支援のための問題の焦点化		
	6	学習支援計画のプレゼンテーション		
	7	ロールプレイ まとめ		講義
	8・9	総合演習事例提示		講義・グループワーク
		患者の日常生活援助上の焦点を明らかにする		
9・10	求められる日常生活援助の実施			
11・12・	事例提示			
13・14	OSCE			
15	まとめ			
評価方法	講義への参加度、筆記試験、提出物、技術評価 その他講義の都度提示する			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 第4 版 学研メディカル秀潤社 看護過程に沿った対症看護 第5 版 Gakken 疾患別看護過程の展開 第6 版 学研メディカル秀潤社 その他講義の都度提示する			

科目名	基礎看護学実習Ⅰ	教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学(臨地実習)
担当教員	山東 純子 他	単位数(時間)	基礎看護学実習Ⅰ 1単位(45時間) 1年次前期
実習目的 および 実習目標	(目的) 1. 療養環境や病む人の生活をイメージし、日常生活援助を実施することができる (目標) 基礎看護学実習Ⅰ-1 1. 病院の構造や機能について知り、地域社会における病院の役割を考えることができる。 2. 病院・病棟での看護の役割と機能を知ることができる。 3. 病院における看護の対象の生活環境がわかる。 4. 看護援助の見学を通して、対象の療養生活や気持ちの変化を知ることができる。 5. 対象と適切なコミュニケーションがとれる 6. 看護学生として必要な基本的態度を身につける。 基礎看護学実習Ⅰ-2 1. 健康を障害された個人及び家族と実際に関わり援助的人間関係を築く努力ができる 2. 対象の入院生活の実際を知る 3. 対象を全体的に理解し、必要な日常生活援助の方向性を見出す 4. 日常看護援助の範囲内において、安全・安楽・自立を考慮した援助を計画し、指導の下実施できる 5. 看護学生として患者の看護に携わる責任を自覚し、行動がとれる 実習要項 参照		
実習施設	病院病棟		
評価方法	基礎看護学実習Ⅰの評価表に基づき評価する。		

教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 看護学概論	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論	医学書院
	NANDA－Ⅰ 看護診断定義と分類	医学書院
	看護技術プラクティス 第4版	学研メディカル秀潤社
	看護過程に沿った対症看護 第5版	Gakken
	疾患別看護過程の展開 第6版	学研メディカル秀潤社
	その他患者理解に必要な図書	

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学（臨地実習）
担当教員	山東 純子 他	単位数（時間）	基礎看護学実習Ⅱ 2単位（90時間） 2年次前期
実習目的 および 実習目標	<p>（目的） 1. 看護過程展開技術を活用し、健康問題を持つ対象に必要な看護援助を実施するための知識・技術・態度を習得する</p> <p>（目標） 1. コミュニケーション技術及び観察技術を用いて、健康問題をもつ対象の情報を収集することができる</p> <p>2. NANDA看護診断の領域に沿って情報を分類し、分析・解釈することができる</p> <p>3. 関連図を用いて対象の全体像を把握することができる</p> <p>4. 対象が達成可能な期待される成果及び看護計画を記載することができる</p> <p>5. 対象の健康問題を理解したうえで、対象に適した援助を安全・安楽に実施することができる</p> <p>6. 期待される成果に沿って実施したことを評価することができる</p> <p>実習要項 参照</p>		
実習施設	病院病棟		
評価方法	基礎看護学実習Ⅱの評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院</p> <p>NANDA－Ⅰ 看護診断定義と分類 医学書院</p> <p>看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社</p> <p>看護過程に沿った対症看護 第5版 Gakken</p> <p>疾患別看護過程の展開 第6版 学研メディカル秀潤社</p> <p>その他患者理解に必要な図書</p>		

地域・在宅看護論

- 目標：1. 地域・在宅で療養生活をしている人とその家族について理解する
 2. 地域・在宅療養者と家族の暮らしを尊重し、自己決定や権利擁護の考え方を深める
 3. 地域・在宅で療養する人とその家族の暮らしを支えるための看護を学ぶ
 4. 地域・在宅で療養する人と家族を支える保健医療福祉の連携と看護の役割を理解する
 5. 社会情勢を含め地域・在宅看護の現状を理解し、今後の地域・在宅看護のあり方を深める

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準 中項目 (キーワード)	教科書
地域看護概論	1	30	山本	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。	1. 地域看護の理念と目的 2. 地域看護の実際 3. 地域包括ケアシステムの実際 4. 公助・共助・自助・互助のつながり 5. 学校周辺地域の特性を学習した学びの発表会	在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題、多職種連携（行政、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、医療機関、その他の機関や住民との連携）、地域包括ケアシステムの概要、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割	・専門分野 地域・在宅看護の基盤 (地域・在宅看護論 1) 医学書院
在宅看護概論	1	30	相良	在宅療養者と家族を理解し、保健・医療・福祉の連携における看護の役割を理解する。	1. 地域・在宅看護の基盤となる考え方 2. 地域・在宅看護に求められる役割 3. 地域包括ケアシステムと共生社会 4. 地域・在宅看護の対象 5. 地域における暮らしを支える看護 6. 地域・在宅看護実践の場と連携 7. 地域・在宅看護に関わる制度	在宅療養者の特徴と健康課題、在宅療養者と家族の理解と健康課題、在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題、在宅療養者の権利の保障、在宅療養者の自立支援、地域・在宅看護の目的と特徴、在宅療養者の日常生活における安全管理、災害による暮らしへの影響、訪問看護制度の理解、地域・在宅看護におけるサービス体系の理解、療養の場の移行に伴う看護、多職種連携（行政、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、医療機関、その他の機関や住民との連携）、地域包括ケアシステムの概要、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割	・専門分野 地域・在宅看護の基盤 (地域・在宅看護論 1) 医学書院

地域・在宅看護方法論Ⅰ	2	30	松平 稲葉 友原	日常生活を中心とした在宅看護、援助の基本について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアとケアマネジメント 2. 訪問看護の特徴と流れ 3. 療養者への日常生活援助 4. 在宅における医療管理を要する人の援助 5. エンドオブライフケアの特徴と在宅での支援の実際 6. 療養者への日常生活援助演習 7. 疾患別在宅看護の実際 8. 在宅における日常生活演習 	在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題、在宅療養者の権利保障、在宅療養者の自立支援、在宅療養者の日常生活における安全管理、訪問看護制度の理解、地域・在宅看護におけるサービス体系の理解、病期に応じた在宅療養者への看護、主な症状に応じた在宅看護、主な疾患等に応じた在宅看護、主な治療等に応じた在宅看護、在宅療養者の生活機能のアセスメント、在宅療養者の生活を支えるケア（食事・栄養、排泄、清潔、移動、コミュニケーション）	・専門分野 地域・在宅看護の基盤（地域・在宅看護論 1）医学書院 ・専門分野 地域・在宅看護の実践（地域・在宅看護論 2）医学書院
地域・在宅看護方法論Ⅱ	2	30	相良	在宅で療養する人と家族を理解し、必要な看護が実践できる基礎的能力を身につける	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭訪問・初回訪問の意義・目的 2. 訪問の手順と倫理・心構え 3. 在宅療養における看護過程の展開技術 4. 在宅療養生活を支える基本的な技術 5. 事例をもとに在宅看護過程展開演習 	在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題、在宅療養者の権利保障、在宅療養者の自立支援、在宅療養者の日常生活における安全管理、訪問看護制度の理解、地域・在宅看護におけるサービス体系の理解、病期に応じた在宅療養者への看護、主な病状に応じた在宅看護、主な疾患等に応じた在宅看護、主な治療等に応じた在宅看護、在宅療養者の生活機能のアセスメント、在宅療養者の生活を支えるケア（食事・栄養、排泄、清潔、移動、コミュニケーション）	・専門分野 地域・在宅看護の基盤（地域・在宅看護論 1）医学書院 ・専門分野 地域・在宅看護の実践（地域・在宅看護論 2）医学書院
地域看護実習	2	90	山本・和久田	地域でさまざまな暮らし・生活をしている人々と接し、生活者の理解を深め、地域包括ケアシステムにかかる看護のありかたを考える	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉センター 2. 地域包括支援センター 3. 障害者支援事業所 4. ボランティア活動 5. ホームホスピス 	在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題、多職種連携（行政、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、医療機関、その他の機関や住民との連携）、地域包括ケアシステムの概要、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割	・専門分野 地域・在宅看護の基盤（地域・在宅看護論 1）医学書院

在宅看護実習	2	90	相良	地域で生活する人と家族を理解し、必要な看護が実践できる基礎的能力を身につける	1. 訪問看護ステーション サービス付き高齢者住宅 2. 診療所	在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題、在宅療養者の権利保障、在宅療養者の自立支援、在宅療養者の日常生活における安全管理、訪問看護制度の理解、地域・在宅看護におけるサービス体系の理解、病期に応じた在宅療養者への看護、主な病状に応じた在宅看護、主な疾患等に応じた在宅看護、主な治療等に応じた在宅看護、在宅療養者の生活機能のアセスメント、在宅療養者の生活を支えるケア(食事・栄養、排泄、清潔、移動、コミュニケーション)	・専門分野 地域・在宅看護の基盤(地域・在宅看護論 1)医学書院 ・専門分野 地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論 2)医学書院 ・写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ
--------	---	----	----	--	--	--	---

科目名	地域看護概論		教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	
担当教員	山本 奈津枝		単位数（時間）	1 単位（30 時間）1 年前期後期	
科目目標	1． 尼崎市及び園田地区の特徴の捉え方を理解することがわかる 2． 地域で暮らす人々の生活をイメージすることができる。 3． 地域包括ケアシステムについて学習し、具体的なイメージをもつことができる 4． 園田地区の暮らしを理解するための情報収集と地域アセスメントができる 5． 地域アセスメントした考えを発表できる。				
科目構成	回数	科目内容		担当	学習方法
	1 2 3 4・5 6～11 12、13 14、15	地域看護の理念と目的、地域看護の実際 公助・共助・自助・互助のつながり、学校のある尼崎市及び園田地域の特性、地域包括ケアシステムの実践 園田地区のアセスメント計画、調査計画 フィールドワークの準備計画 フィールドワークの実際、発表会準備 発表会 老人福祉センターの目的、レクリエーション計画		山本	講義 GW GW 講義GW
評価方法	1 回の筆記試験（課題提出含む）・課題点				
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院				

科目名	在宅看護概論		教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	
担当教員	相良 ひとみ		単位数（時間）	2 単位（30 時間）2 年前期	
科目目標	1．地域・在宅看護の目的・特徴を理解する。 2．地域・在宅看護の対象者を理解する。 3．地域・在宅看護にかかわる法令・制度と訪問看護制度を理解する。 4．療養の場の移行に伴う看護を理解する。 5．地域包括ケアシステムにおける多職種連携について理解する。				
科目構成	回数	科目内容		担当	学習方法
	1	人々の暮らしの理解		相良	講義 演習
	2	地域・在宅看護の基盤となる考え方と求められる役割			
	3	地域包括ケアシステムと地域共生社会			
	4	地域・在宅看護の対象			
	5	地域における暮らしを支える看護			
	6、7	地域・在宅看護実践の場と連携		GW	
	8、9	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用			
	10~11	訪問看護ステーション演習、グループ発表			

	12～15	地域における在宅医療の実践（視覚的教材による学習）		
評価方法	1回の筆記試験（課題提出ふくむ）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院			

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ		教育内容	専門分野 地域・在宅看護論
担当講師	稲葉 典子・松平 康子・友原 明子		単位数（時間）	2単位（30時間）2年後期
科目目標	1. 訪問時のマナー・面接技術について理解する。 2. 在宅療養を支える看護の基本を理解する。 3. 在宅における特徴的な疾病のある療養者の看護を理解する。 4. 在宅における医療管理を必要とする人と看護を理解する。 5. 在宅療養者の病期に応じた看護を理解する。 6. 在宅看護におけるケアマネジメントを理解する。			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
	1・2	在宅ケアとケアマネジメント	松平 友原	講義
	3、4	訪問看護の特徴と流れ		
	5、6	多職種との協働、退院調整・支援、コミュニケーション、緊急時対応療養者への日常生活援助（呼吸ケア、清潔援助、排泄援助、便秘、嚥下障害、服薬管理、移動、訪問入浴の実践） 在宅における医療管理を要する人の看護（褥瘡予防とケア、バルンカテーテル、自己導尿、経管栄養、中心静脈栄養、在宅酸素療法、気管切開、人工呼吸器）	稲葉	GW 講義 演習
	7	エンドオブライフケアの特徴と在宅での支援の実践 アドバンスケアプランニングと意思決定		
	8、9	療養者への日常生活援助 演習発表		
	10、11	疾患別在宅看護の実践		
	12、13	在宅における疾患別日常生活援助演習		
	14、15	がん終末期、ALSの胃瘻管理など 在宅における疾患別日常生活演習 グループ発表		
評価方法	筆記試験・課題・出席点により評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディア			

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ		教育内容	専門分野 地域・在宅看護論
担当教員	相良 ひとみ		単位数（時間）	2 単位（30 時間）2 年後期
科目目標	1. 地域・在宅看護における看護過程の特性を理解する。 2. 事例を通して在宅療養に必要な看護を考える。 3. 在宅療養における生活支援・医療処置の実際を学ぶ。 4. 在宅療養の場に応じた基本姿勢を養う。			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1 2、3 4－6 7－10 11－15	地域・在宅看護における看護過程の基本 地域・在宅看護における看護過程の展開と方法 訪問看護演習～信頼関係を構築するための看護職としての姿勢～ 事例による看護過程展開演習 ～事例を基に地域・在宅における看護過程を展開してみよう～ 訪問看護演習、グループ演習 ～訪問看護師として地域・在宅における看護実践を体験してみよう～		講義 演習 GW
評価方法	1 回の筆記試験・課題で評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院			

科目名	地域看護実習	教育内容	専門分野 地域・在宅看護論 (臨地実習)
担当教員	山本 奈津枝 和久田 幸代	単位数 (時間)	2 単位 (90 時間) 1 年後期
実習目的 及び 実習目標	(目的) 地域でさまざまな暮らし・生活をしている人々と接し、生活者の理解を深め、地域包括ケアシステムにかかる看護のありかたを考える。 (目標) 地域で生活する人々と地域包括ケアシステムの関連を深め、地域看護に反映できる基礎的能力を養う。 実習要項 参照		
実習施設	地域包括支援センター 老人福祉センター 身体障害者デイサービスセンター・身体障害者福祉センター ホームホスピス・みんなの労働文化センター、他 尼崎市立総合老人福祉センターレクリエーション		
評価方法 評価基準	地域看護実習の評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 その他 実習状況に合わせて既習学習した教科書、資料、文献を活用する。		

科目名	在宅看護実習	教育内容	専門分野 地域・在宅看護論 (臨地実習)
担当教員	相良 ひとみ	単位数 (時間)	2 単位 (90 時間) 3 年後期
実習目的 及び実習目標	(目的) 地域で生活する人と家族を理解し、必要な看護が実践できる基礎的能力を身につける (目標) 1. 地域・在宅で生活する人を理解し個々に応じた健康査定、看護実践が理解できる 2. 地域・在宅で生活する人の地域包括ケアにおける社会制度が理解できる 3. 地域包括ケアにおける関係施設・部署・多職種との連携が理解できる 4. 地域包括ケアの場に応じた看護者の役割を考察する 実習要項 参照		
実習施設	訪問看護ステーション、サービス付き高齢者住宅 診療所		
評価方法 評価基準	在宅看護実習の評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ その他 実習状況に合わせて既習学習した教科書、資料、文献を活用する。		

成人看護学

- 目標： 1. 成人期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する。
 2. 成人期にある対象の看護に有用な理論や考え方を理解する。
 3. 成人期の生活と健康過程を理解し、健康の保持増進、疾病予防に必要な看護を理解する。
 4. 急激な健康の破綻状態にある対象と危機の回復に必要な看護を理解する。
 5. 慢性病とともに生きる対象と生活再構築に必要な看護を理解する。
 6. 障害のある対象とリハビリテーションや社会復帰に必要な看護を理解する。
 7. 侵襲的な治療を受ける対象と生体侵襲の回復に必要な看護を理解する。
 8. がん患者と家族の特徴を理解し、治療過程と包括的ケア促進に必要な看護を理解する。
 9. 緩和・終末期ケアを必要とする対象と苦痛の緩和や最期のときを支える看護を理解する。

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準 中項目（キーワード）	教科書
成人看護学概論	1	15	西村	1. 成人期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から総合的に学ぶ 2. 成人期にある対象の看護に有用な理論や考え方を学ぶ 3. 成人の健康レベルや状況に対応した看護の概要を学ぶ	1. 身体的・心理的・社会的な特徴 2. 発達課題の特徴 3. 家族形態の変化、家族機能 4. 働いて生活を営むこと 5. 健康行動の捉え方 6. 成人への看護アプローチの基本 7. 急性期、慢性期にある成人の特徴と看護の概要 8. 障害のある人と最期のときを支える看護の概要	成人期の発達の特徴 成人の生活 急性期にある患者と家族の特徴、急性期における看護の基本 慢性疾患がある患者と家族の特徴、慢性疾患の治療と看護の基本 セルフケア・自己管理を促進する看護 社会的支援の獲得への援助	成人看護学 ① 成人看護学総論 第1章 第3章 第6～9章 第14章
成人看護学方法論Ⅰ	1	15	池田	成人期の生活と健康過程を理解し、健康の保持増進、疾病予防に必要な看護を学ぶ	1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 3. ヘルスプロモーションと看護 4. 健康をおびやかす要因と看護	成人を取り巻く環境 生活習慣に関連する健康課題 職業に関連する健康課題 ストレスに関連する健康課題	成人看護学 ①成人看護学総論 第2章 第4～5章
成人看護学方法論Ⅱ	1	30	南	1. 急激な健康の破綻状態にある対象と危機の回復に必要な看護を学ぶ 2. 呼吸、循環、消化・吸収、栄養代謝機能障害のある人の急性期看護を学ぶ	1. 機能障害とその影響 2. 主な検査・処置と看護 3. 主な治療と看護 4. 急性期における機能障害に応じた看護 ＜呼吸機能障害＞ ＜循環機能障害＞ ＜消化・吸収機能障害＞ ＜栄養代謝機能障害＞	原因と障害の程度のアセスメントと看護 検査・処置を受ける患者への看護 治療を受ける患者の看護 病期や機能障害に応じた看護 急性期にある患者と家族の特徴、急性期における看護の基本	成人看護学 ②呼吸器 第1～7章 ③循環器 第1～7章 ⑤消化器 第1～7章
成人看護学方法論	1	30	松永	1. 慢性病とともに生きる対象と生活再構築に必要な看護を学ぶ 2. 内部環境調節、内分泌、身	1. 機能障害とその影響 2. 主な検査・処置と看護 3. 主な治療と看護 4. 慢性期における機能障害に応じた看護 ＜内部環境調節機能障害＞ ＜内分泌機能障害＞	原因と障害の程度のアセスメントと看護 検査・処置を受ける患者への看護 治療を受ける患者の看護 病期や機能障害に応じた看護	成人看護学 ⑥内分泌・代謝 第1～7章 ⑩アレルギー・膠原病・感染症 第1～7章

Ⅲ				体防御、排尿機能障害がある人の慢性期看護を学ぶ	<身体防御機能障害> <排尿機能障害>	慢性期にある患者と家族の特徴、慢性期における看護の基本 セルフケア・自己管理を促進する看護 社会的支援の獲得への援助	④血液・造血器 第1～7章 ⑧腎・泌尿器 第1～7章
成人看護学方法論Ⅳ	1	30	南	1. 障害のある対象とリハビリテーションや社会復帰に必要な看護を学ぶ 2. 脳・神経、運動、性・生殖・乳腺機能障害がある人の回復期（リハビリテーション期）の看護を学ぶ	1. リハビリテーションの定義と理念 2. リハビリテーションにおける看護の役割 3. 疾病・障害・生活機能の分類 4. 障害者の体験と障害受容 1. 機能障害とその影響 2. 主な検査・処置と看護 3. 主な治療と看護 4. 回復期における機能障害に応じた看護 <脳・神経機能障害> <運動機能障害> <性・生殖・乳腺機能障害>	リハビリテーションの特徴 機能障害のアセスメント 障害に対する受容と適応への看護 チームアプローチと社会資源の活用 患者の社会参加への支援 原因と障害の程度のアセスメントと看護 検査・処置を受ける患者への看護 治療を受ける患者の看護 病期や機能障害に応じた看護	リハビリテーション看護 第1～2章 成人看護学 ⑦脳神経 第1～7章 ⑩運動器 第1～7章 ⑨女性生殖器 第1～7章
成人看護学方法論Ⅴ	1	30	西村	1. 急激な健康の破綻状態にある対象と危機の回復に必要な看護を学ぶ 2. 侵襲的な治療を受ける対象と生体侵襲の回復に必要な看護を学ぶ 3. がん患者と家族の特徴を理解し、治療過程と包括的ケア促進に必要な看護を学ぶ 4. 緩和・終末期ケアを必要とする対象と苦痛の緩和や最期のときを支える看護を学ぶ	<救急看護の対象と看護> 1. 救急看護の対象の理解 2. 救急看護と倫理的側面 3. 緊急度と重症度のアセスメント 4. 救急看護・クリティカルケアの基本 <手術療法を受ける対象と看護> 1. 手術侵襲と生体の反応 2. 周手術期看護の特徴 3. 手術前患者の看護 4. 手術中患者の看護 5. 手術後患者の看護 <がん看護の対象と看護> 1. がん看護の対象と特徴 2. がん治療に対する看護 3. がん患者の療養支援 <緩和・終末期ケアの対象と看護> 1. 緩和ケアの現状と課題 2. 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント 3. 療養の場の広がりと思意思決定支援 4. 臨死期のケア	緊急度と重症度のアセスメント 救急看護・クリティカルケアの基本 術前の看護 術中の看護 術後の看護 術後合併症と予防 術後の機能障害や生活制限への看護 がん患者の抱える苦痛 がん患者の集学的治療と看護 がん患者の社会参加への支援 がん患者の家族の特徴と看護 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 エンドオブライフケア 臨死期の看護	救急看護学 第1～2章 第4～5章 臨床外科看護総論 第1章 第6～9章 がん看護学 第3～5章 緩和ケア 第1章 第4～7章
成人・老年	2	90	西村	地域で生活する対象者の健康維持・増進、疾病予防活動の実際を理解し、健康	1. 地域で暮らす対象者の生活と健康状態の実状 2. 地域における健康維持・増進支援活動の実際 3. 疾病の早期発見に向けた取り組		

看護学実習Ⅰ				課題と看護の必要性を学ぶ	<p>みの実際</p> <p>①スポーツ振興施設</p> <p>②健康増進センター</p> <p>③地域医療機関</p> <p>④地域における健康支援活動</p> <p>①～④の活動の実際がわかり、看護の必要性を考える。</p> <p>⑤対象者とのコミュニケーションを通して生活と健康の様子がわかり、看護の必要性を考える。</p> <p>⑥産業保健師の役割と活動がわかる。</p> <p>⑦働く人のメンタルヘルスについて考える。</p> <p>⑧対象者の健康課題と看護の必要性を考える。</p>		
成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90	南	急激な健康状態の変化から回復過程にある患者、家族への看護を学ぶ	<p>1. 侵襲のある治療を受ける対象を総合的に理解する。</p> <p>2. 侵襲のある治療の予測される問題を理解する。 : 手術療法、がん化学療法、放射線療法等</p> <p>3. 侵襲のある治療に向けて身体状態を整える看護がわかる。</p> <p>4. 侵襲のある治療に際して安全な環境を整える看護がわかる。</p> <p>5. 行われた侵襲のある治療の内容と治療中の状態がわかる。</p> <p>6. 治療後の合併症予防のための観察と援助がわかる。</p> <p>7. 回復期の合併症予防のための援助がわかる。</p> <p>8. 治療後の回復レベルに応じた援助を実施・評価する。</p> <p>9. 倫理的配慮に基づいて対象者との援助的関係を築く。</p> <p>10. グループダイナミクスを実践し、看護観を深める。</p>		
成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90	南	慢性的な変化及び慢性的な健康課題をもつ患者、家族への看護を学ぶ	<p>1. 慢性的な健康障害のある対象を総合的に理解する。</p> <p>2. 治療や検査内容とその評価を理解する。</p> <p>3. 対象の健康・生活を支えるための支援について理解する。</p> <p>4. 対象の機能障害の影響を総合的に理解する。</p> <p>5. 対象の全体性をふまえ、健康状態を査定する。</p> <p>6. 機能障害やセルフケア能力をふまえた看護計画を立案する。</p> <p>7. 立案した看護計画を安全・安楽に実践する。</p> <p>8. 看護実践を評価し、追加修正する。</p> <p>9. 倫理的配慮に基づいて対象者との援助的関係を築く</p> <p>10. グループダイナミクスを実践し、</p>		

					看護観を深める。		
--	--	--	--	--	----------	--	--

科目名	成人看護学概論		教育内容	専門分野	成人看護学
担当教員	西村 理恵		単位数（時間）	1 単位（15 時間）1 年後期	
科目目標	1. 成人の身体的・心理的・社会的な特徴を理解する 2. 成人の発達課題を理解する 3. 家族形態の変化、家族機能 4. 成人の生活の営み、働くことを理解する 5. 成人の健康行動の捉え方を理解する 6. 成人への看護アプローチの基本を理解する 7. 急性期・慢性期にある成人の特徴と看護の概要を理解する 8. 障害のある人の支援、最期のときを支える看護の概要を理解する				
科目構成	回数	科目内容		担当	学習方法
	1	生涯発達の特徴、各発達段階の特徴、家族形態の変化と家族機能、働いて生活を営むこと		西村	講義
	2	健康行動の捉え方、行動変容を促進する看護アプローチ			
	3・4	生命の危機状態と急性期にある人の特徴、健康破綻がもたらす危機状況			
	5・6	慢性病と慢性病をもつ人の特徴、セルフケア・セルフマネジメントの支援			
	7	障害がある人の支援、最期の時を支える看護			
評価方法	1 回の筆記試験により評価する				
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院				

科目名	成人看護学方法論Ⅰ		教育内容	専門分野 成人看護学
担当講師	池田 美由紀		単位数（時間）	1 単位（15 時間）1 年後期
科目目標	1. 成人を取り巻く環境を理解する 2. 成人の健康の状況を理解する 3. 生活と健康をまもりはぐくむシステムを理解する 4. ヘルスプロモーションを促進する看護を理解する 5. 健康をおびやかす要因と看護を理解する			
科目構成		科目内容	担当	学習方法
	1	成人を取り巻く環境と生活	池田	講義
	2	成人の健康の状況		
	3	生活と健康をまもりはぐくむシステム		
	4	ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーションを促進する看護		
	5	健康バランスの構成要素、影響を及ぼす要因		
	6・7	生活行動がもたらす健康問題とその予防		
評価方法	1 回の筆記試験により評価する			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 厚生指針 国民衛生の動向 厚生統計協会			

科目名	成人看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野 成人看護学
担当教員	南 慶子		単位数（時間）	1 単位（30 時間） 2 年前期
科目目標	1．急激な健康の破綻状態にある対象と危機の回復に必要な看護を学ぶ 2．呼吸、循環、消化・吸収、栄養代謝機能障害のある人の急性期看護を学ぶ			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
		<呼吸機能障害のある人の看護>	南	講義
	1	呼吸機能障害のある患者の特徴		
	2	呼吸機能障害の症状と病態の分類・程度		
	3	呼吸機能障害の検査・治療と看護		
	4	呼吸機能障害のある人の急性期看護		
		<循環機能障害がある人の看護>		
	5	循環機能障害のある患者の特徴		
	6	循環機能障害の症状と病態の分類・程度		
	7	循環機能障害の検査・治療と看護		
	8	循環機能障害のある人の急性期看護		
		<消化・吸収、栄養代謝障害機能障害のある人の看護>		
	9	消化・吸収、栄養代謝機能障害のある患者の特徴		
	10	消化・吸収、栄養代謝機能障害の症状と病態の分類・程度		
	11	消化・吸収、栄養代謝機能障害の検査・治療と看護		
	12	消化・吸収、栄養代謝機能障害のある人の急性期看護		
	13	事例患者の看護過程の展開		演習
	14			
	15			
評価方法	1 回の筆記試験、事例の看護過程展開演習により評価する			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院			
参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器 医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器 医学書院			
	NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院			
	看護技術プラクティス第4版 学研			

科目名	成人看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野 成人看護学
担当教員	松永 洋子		単位数（時間）	1 単位（30 時間） 2 年前期
科目目標	1. 慢性病とともに生きる対象と生活再構築に必要な看護を学ぶ 2. 内部環境調節、内分泌、身体防御、排尿機能障害がある人の慢性期看護を学ぶ			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
		<内部環境調節、内分泌機能障害のある人の看護>	松永	講義
	1	内分泌・代謝機能障害のある人の特徴		
	2	内分泌・代謝機能障害の症状と病態の分類・程度		
	3	内分泌・代謝機能障害の検査・治療と看護		
	4	内分泌・代謝機能障害のある人の慢性期看護		
		<身体防御機能障害のある人の看護>		
	5	身体防御機能障害のある人の特徴		
	6	身体防御機能障害の症状と病態の分類・程度		
	7	身体防御機能障害の検査・治療と看護		
	8	身体防御機能障害のある人の慢性期看護		
		<排尿機能障害のある人の看護>		
	9	排尿機能障害のある人の特徴		
	10	排尿機能障害の検査・治療と看護		
	11	排尿機能障害の症状と病態の分類・程度 （認定看護師講義）	小柴	
	12	排尿機能障害のある人の慢性期看護	小柴	

	13 14 15	(認定看護師講義) 事例患者の看護過程の展開	松永	演習
評価方法	1回の筆記試験、事例の看護過程展開演習により評価する			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 看護技術プラクティス第4版 学研			

科目名	成人看護学方法論Ⅳ		教育内容	専門分野 成人看護学
担当教員	南 慶子		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間) 2 年後期
科目目標	1. 障害のある対象とリハビリテーションや社会復帰に必要な看護を学ぶ 2. 脳・神経、運動、性・生殖・乳腺機能障害がある人の回復期（リハビリテーション期）の看護を学ぶ			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
		<リハビリテーション看護概論>	南	講義
	1	リハビリテーションの定義と看護の役割、障害受容		
	2	疾病、障害・生活機能の分類		
		<脳・神経機能障害のある人の看護>		
	3	脳・神経障害のある人の特徴		
	4	脳・神経障害の症状と病態の分類・程度		
	5	脳・神経障害の検査・治療と看護		
	6	脳・神経障害のある人の回復期（リハビリテーション期）看護		
	7	<運動機能障害のある人の看護>		
	8	運動機能障害のある人の特徴		
		運動機能障害の症状と病態の分類・程度		
	9	運動機能障害の検査・治療と看護		
	10	運動機能障害のある人の回復期（リハビリテーション期）看護		
		<性・生殖・乳腺機能障害のある人の看護>		
		性・生殖・乳腺機能障害のある人の特徴		
	11	性・生殖・乳腺機能障害の症状と病態の分類・程度		
	12	性・生殖・乳腺機能障害の検査・治療と看護		
	13	性・生殖・乳腺機能障害のある人の回復期（リハビリテーション期）看護		
	14	事例の看護過程の展開		
	15			演習
評価方法	1回の筆記試験、事例の看護過程展開演習により評価する			
教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 脳神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 看護技術プラクティス第4版 学研			

科目名	成人看護学方法論Ⅴ		教育内容	専門分野 成人看護学
担当教員	西村 理恵		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間) 2 年後期
科目目標	1. 急激な健康の破綻状態にある対象と危機の回復に必要な看護を理解する 2. 侵襲的な治療を受ける対象と生体侵襲の回復に必要な看護を理解する 3. がん患者と家族の特徴を理解し、治療過程と包括的ケア促進に必要な看護を理解する 4. 緩和・終末期ケアを必要とする対象と苦痛の緩和や最期のときを支える看護を理解する			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法

	1	＜救急看護の対象と看護＞ 救急看護の対象の理解、救急看護と倫理的側面、 緊急度と重症度のアセスメント	西村	講義
	2	救急看護の基本 ＜手術療法を受ける対象と看護＞		講義
	3	手術侵襲と生体の反応、周手術期看護の特徴		
	4	手術前患者の看護		
	5	手術中患者の看護		
	6・7	手術後の看護		
	8	手術療法を受ける患者事例の看護過程の展開		演習
	9			
	10	＜がん看護の対象と看護＞		講義
	11	がん看護の対象と特徴 がん治療に対する看護と療養支援		
	12	①がん薬物療法を受ける患者の看護		
	13	②放射線療法を受ける患者の看護 ＜緩和・終末期ケアの対象と看護＞	講義	
	14	緩和ケアの現状と課題、療養の場の広がりと思 意決定支援、臨死期のケア		
	15	終末期にある患者の緩和ケア (認定看護師講義)	高橋	
評価方法	1 回の筆記試験、事例の看護過程展開演習により評価する			
教科書 参考書	系統看護学講座	専門分野	基礎看護学[3]	基礎看護技術Ⅱ 医学書院
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学[1]	成人看護学総論 医学書院
	系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論	医学書院
	系統看護学講座	別巻	救急看護学	医学書院
	系統看護学講座	別巻	がん看護学	医学書院
	系統看護学講座	別巻	緩和ケア	医学書院
	NANDA-I 看護診断	定義と分類		医学書院
	看護技術プラクティス第4版	学研		

科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ	教育内容	専門分野 成人・老年看護学（臨地実習）
担当教員	西村 理恵	単位数（時間）	2単位（90時間） 2年後期
科目目標	<p>（目的）地域で生活する対象者の健康維持・増進、疾病予防活動の実際を理解し、健康課題と看護の必要性を学ぶ。</p> <p>（目標） １．地域で暮らす対象者の生活と健康状態の実状が理解できる。</p> <p>２．地域における健康維持・増進支援活動の実際がわかり、健康課題と看護の必要性を考える。</p> <p>３．疾病の早期発見に向けた取り組みの実際がわかり、健康課題と看護の必要性を考える。</p> <p>構成、内容については実習要項参照</p>		
実習施設	スポーツ振興施設、健康増進センター、地域医療機関、地域健康支援活動の場		
評価方法 評価基準	成人・老年看護学実習Ⅰの評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕～〔15〕 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・救急看護学・がん看護学・緩和ケア 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学、老年看護 医学書院</p> <p>看護技術プラクティス第4版 学研</p> <p>その他、実習状況に合わせて既習の教科書、資料、文献を活用する</p>		

担当教員

斗目目標

三、習施設

王 恒 1994

平紅甘淮

理科書

余老聿

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	教育内容	専門分野 成人・老年看護学（臨地実習）
担当教員	南 慶子	単位数（時間）	2単位（90 時間） 3 年前期
科目目標	（目的）急激な健康状態の変化から回復過程にある患者・家族への看護を学ぶ。 （目標） 1. 侵襲のある治療に向けて、心身の状態を整えるための看護を理解する。 2. 侵襲のある治療に応じた合併症の予防と早期回復に向けた援助を理解する。 3. 医療チームの連携の重要性を理解し、その一員として責任ある行動がとれる。 構成、内容については実習要項参照		
実習施設	病院病棟		
評価方法 評価基準	成人・老年看護学実習Ⅱの評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕～〔15〕 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・救急看護学・がん看護学・緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学・老年看護 医学書院 看護技術プラクティス第4版 学研 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 その他、実習状況に合わせて既習の教科書、資料、文献を活用する		

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	教育内容	専門分野 成人・老年看護学（臨地実習）
担当教員	南 慶子	単位数（時間）	2単位（90 時間） 3 年前期
科目目標	（目的）慢性的な変化および慢性的な健康課題をもつ患者・家族への看護を学ぶ。 （目標） 1. 患者の健康障害と健康課題に応じた看護を理解する。 2. 疾病管理、セルフケアに向けた援助を理解する。 3. 医療チームの連携の重要性を理解し、その一員として責任ある行動がとれる。 構成、内容については実習要項参照		
実習施設	病院病棟		
評価方法 評価基準	成人・老年看護学実習Ⅲの評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕～〔15〕 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・救急看護学・がん看護学・緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学・老年看護 医学書院 看護技術プラクティス第4版 学研 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 その他、実習状況に合わせて既習の教科書、資料、文献を活用する		

老年看護学

目的：老年期にある人と家族及び支える人々を理解し、その人らしく生きるための看護を実践できる基礎的能力を養う。

- 目標：1. 老年期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する。
 2. 老年期の特徴をふまえ生活機能を整える看護を理解する。
 3. 老年期にある対象の看護に有用な理論や考え方を理解する。
 4. 健康問題が高齢者や家族に及ぼす影響を理解し、高齢者を支えるために必要な看護を理解する。
 5. 高齢者が人生の終焉までその人らしく生活することを支えるために必要な看護を理解する。
 5. 看護学生として老年看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける。

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準 中項目（キーワード）	教科書
老年看護学概論	1	30	古澤	1. ライフサイクルにおける老年期の特徴を学ぶ。 2. 老年期にある対象の看護に有用な理論や考え方を学ぶ。	1. 高齢者の理解と健康 ・加齢変化（身体的・心理的・精神的側面）の特徴 ・発達課題の特徴 2. 老年看護の基本的な考え方 3. 高齢者と家族の生活を支えるための支援 4. 高齢者の権利擁護 5. 老年看護の倫理的課題 6. 高齢者疑似体験	老年期の発達と変化 加齢への適応 高齢者のいる家族の理解 高齢者の機能と評価 その人らしい生活の継続 高齢者の健康と疾病 身体機能の変化・認知機能の変化・心理・社会的変化と健康への影響 老年看護に用いられる概念・モデル・理論 老年看護の倫理	老年看護学① 老年看護学 第1章 第3章 第4章
老年看護学方法論Ⅰ	1	15	中島	社会（保健・医療・福祉）の中で老年期の対象に応じた健康の維持・増進及び疾病の予防に対する必要な看護を学ぶ。	1. 高齢者を取り巻く社会の現状と課題 2. 超高齢社会における保健医療福祉システム ・超高齢社会と社会保障 ・保健医療福祉の動向 ・高齢者の権利擁護 3. 生活・療養の場における看護 4. 高齢者と家族の生活を支えるための支援	高齢者の生活を支える制度と施策 医療施設に入院する高齢者の暮らしと看護 介護保険施設に入所する高齢者の暮らしと看護 地域でサービスを利用しながら暮らす高齢者の暮らしと看護 生活の場を変える高齢者への支援 長期入院・入所高齢者の看護 多職種連携、チームアプローチ 高避難生活を送る高齢者の看護	老年看護学① 老年看護学 第2章 第9章
老年看護学方法論Ⅱ	1	30	浅田	1. 高齢者の生活機能を整える看護を学ぶ。 2. 高齢者の暮らしを支える看護を学ぶ。 3. 高齢者に特有な疾患・障害の病態と看護を学ぶ。	1. 高齢者の生活機能を整える看護アセスメント 2. 健康逸脱からの回復を促す看護 ・症候のアセスメントと看護 ・疾患のある高齢者の看護 ・認知機能障害のある高齢者の看護 3. 治療を必要とする高齢者の看護 4. エンドオブライフケア ACP 5. 高齢者のリスクマネジメント	コミュニケーションの特徴と援助 安全な活動への援助 食事・食生活の特徴と援助 排泄の特徴と援助 清潔と衣生活の特徴と援助 活動と休息のバランスの特徴と援助、 性（セクシュアリティ） 急性期、回復期、慢性期、終末期にある高齢者と家族への看護 検査・外来・薬物療法・手術・リハビリテーションを受ける高齢者の看護 認知機能が低下した高齢者の看護 疾患や障害を持つ高齢者の家族への支援	老年看護学① 老年看護学 第4章 第5章 第6章 第7章 第8章 第10章 老年看護病態・疾患論 第4章

老年看護学方法論Ⅲ	1	30	橋本・浅田	1. 健康課題に応じた老年者への援助方法を学ぶ。 2. 老年看護の実践の基礎を学ぶ。	1. 老年症候群 2. 老年者の疾患の特徴 3. 高齢者と薬 4. 高齢者の健康課題と看護過程 5. 事例演習 6. 高齢者の日常生活機能を整える看護 7. 高齢者の健康逸脱からの回復を促すアセスメントと看護 8. 様々な受療状況に応じた高齢者の看護	高齢者の機能と評価 急性期、回復期、慢性期、終末期へにある高齢者と家族への看護、 検査・治療（薬物療法・手術療法・リハビリテーション）を受ける高齢者への看護	老年看護学① 老年看護学第4章 第5章 第6章 第7章 付章 老年看護病態・疾患論 第2章
老年看護学実習	2	90	浅田	地域や施設における高齢者との関わりから、老年期の特徴を理解し高齢者の持てる力に着眼して自立や安全性を考えた看護を学ぶ。	1. 介護老人福祉施設 2. 介護老人保健施設 3. 通所サービス		老年看護学全章

科目名	老年看護学概論		教育内容	専門分野 老年看護学	
担当教員	古澤 美保		単位数（時間）	1 単位（30 時間）	履修時期 1 年後期
科目目標	1. 老年期にある人のその人らしい健康と生活について理解する。 2. 高齢者と家族のその人らしい健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状および課題を理解する。 3. 高齢社会における老年看護の役割を理解する。				
科目構成	回数	科目内容			学習方法
	1 2～3 4 5～8 9 10 11 12 13 14 15	加齢と老化 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化の特徴 加齢に伴う変化と生活への影響 高齢者の日常生活の疑似体験 高齢者にとっての健康 老年看護の定義・老年看護の役割と特徴 老年看護に関わる理論・概念 老年看護に携わる者の責務 高齢者の暮らし 高齢社会の権利擁護と倫理的課題 高齢者を取り巻く社会環境			講義 演習 ＊高齢者 疑似体験
評価方法	1 回の筆記試験、課題提出により評価する。				
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院				

科目名	老年看護学方法論Ⅰ		教育内容	専門分野 老年看護学	
担当講師	中島 岐代美		単位数（時間）	1単位（15時間）	履修時期 1年後期
科目目標	1. 高齢者と家族の健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する。 2. 介護保険制度や成年後見制度など高齢者の自立と権利を守るための社会制度について理解する。 3. 高齢者の看護における倫理的課題について理解する。 4. 高齢者の生活・療養の場における看護を理解する。 5. 高齢者のヘルスプロモーションと健康増進プログラムについて理解する。				

科目構成	回数	科目内容	学習方法
	1	超高齢社会の統計的輪郭	講義
	2	高齢者保健医療福祉の変遷、保健医療福祉の動向	演習
	3	介護保険制度・多職種と看護活動の多様化 地域包括ケアシステム 他	
	4	高齢者の権利擁護	
	5	生活・療養の場における看護；ヘルスプロモーション・介護予防と看護	
	6	在宅高齢者への看護・医療施設における看護 保健医療福祉施設における看護	
	7	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	
評価方法	1回の筆記試験、課題提出により評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院		

科目名	老年看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野 老年看護学	
担当講師	浅田 加枝		単位数（時間）	1 単位（30 時間）	履修時期 2 年前期
科目目標	1. 地域で生活する高齢者を対象に、老化が生活に及ぼす影響を理解する。 2. 高齢者の生活機能を整える看護の基本を理解する。 3. 高齢者の健康障害の特徴と看護を理解する。 4. 生活の場の特徴を踏まえ高齢者とその家族への看護を理解する。 5. 認知機能が低下した高齢者がその人らしく暮らし続けられるための支援について理解する。				
科目構成	回数	科目内容			学習方法
	1 2 3 ～ 8 9 ～ 12 13 14 15	高齢者に特徴的な症状と看護 高齢者の生活機能のアセスメント 高齢者の生活機能を整える看護 ・日常生活を支える基本的活動 ・食事、食生活・排泄・清潔・生活リズム・コミュニケーション・ セクシュアリティ・社会参加 アクティビティケア 健康逸脱から回復を促す看護 ・症候のアセスメントと看護 ・身体疾患のある高齢者の看護 ・認知機能障害のある高齢者の看護 高齢者看護における倫理的課題と権利擁護 高齢者のリスクマネジメント エンドオブライフケア（ACP）			講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験、課題提出により評価する。				
教科書	系統看護学講座		専門分野	老年看護学	医学書院
参考書	系統看護学講座		専門分野	老年看護 病態・疾患論	医学書院

科目名	老年看護学方法論Ⅲ	教育内容	専門分野 老年看護学	
担当教員	橋本 創 ・ 浅田 加枝	単位数（時間）	1単位（30時間）	履修時期 2年後期
科目目標	1. 老年者におこりやすい病気や検査、治療の特徴と看護について理解する。 2. 高齢者の健康課題に対する診断・治療過程における看護が理解できる。 3. 老年者の生活機能をふまえたアセスメントを行い、必要な看護を考える。 4. 高齢者の健康状況に合わせた、生活機能を整える技術を理解し習得できる。 5. 老年者の対象の特性をふまえて、必要な看護技術を習得する。			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
	1	1. 高齢者の疾患の特徴	橋本	講義
	2	（認知症・脳血管障害・慢性心不全・高齢者肺炎）		
	3	2. 高齢者の生理的特徴 3. 老年症候群 主要な症候とおこりやすい問題、高齢者と薬		
	4	4. 高齢者に特徴的な機能障害と看護過程	浅田	講義

	5 6 7 8 910 1112 1314 15	5. 健康逸脱からの回復と終末期を支える看護の展開 6. 診断過程における検査・治療・入院を必要とする高齢者の看護 ・ 薬物治療と看護 ・ 手術療法と看護 ・ 終末期の看護 ・ 退院時の看護と継続看護 7. 高齢者の事例の看護過程の展開 対象者の持てる力と望む生活を考える 8. 高齢者の看護に必要な看護介入 学習の共有；プレゼンテーション		演習
評価方法	1回の筆記試験と、看護過程の演習記録、出席点で評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器 [7]脳・神経 [13]眼 [2]呼吸器 [3]循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 看護がみえるフィジカルアセスメント メディックメディカ 症状からみる看護過程の展開 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院			

科目名	老年看護学実習	教育内容	専門分野 老年看護学（臨地実習）
担当教員	浅田 加枝	単位数（時間）	老年看護学実習2単位（90）2年後期
実習目標	（目的）老年期にある対象を理解し、健康課題をもつ高齢者への看護が実践できる基礎的能力を養う。 （目標） 1. 地域で生活する高齢者の特徴を理解することができる 2. 高齢者の日常生活の自立に向けた援助の必要性を理解し安全・安楽に実践することができる。 3. 高齢者を取り巻く保健医療福祉の役割と連携の必要性を理解することができる。 4. 高齢者との関わりを通して自己の老年観を養うことができる。 構成・内容については実習要綱参照		
実習施設	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、通所サービス		
評価方法	老年看護学実習の評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 看護がみえるフィジカルアセスメント メディックメディカ その他、実習状況に合わせて既習の教科書・資料・文献を活用する。		

小児看護学

- 目標： 1. 小児の健康及び小児看護における社会的・倫理的側面について理解する
 2. 小児看護の対象及び看護活動の場と小児看護の機能について理解する
 3. 子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族の看護について理解する
 4. 病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響と看護について理解する
 5. 特別な状況にある子どもと家族への看護について理解する
 6. 健康課題を持つ子どもと家族への看護について理解する
 7. 子どもと家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準 中項目（キーワード）	教科書
小児看護学概論	1	30	福原眞記子	小児看護の対象及び小児看護の特徴及び理念について学ぶ	1. 小児看護の特徴と理念 2. 子どもの特徴大人との違い 3. 成長・発達の原則と影響因子 4. 小児各期の特徴と健康課題 5. 子どもにとっての家族 6. 子どもと家族を取り巻く環境の変化 7. 子どもの権利擁護 8. 小児に関する法律 9. 小児看護における概念と理論	小児医療・小児看護の変遷と看護 子どもの権利 子どもの成長・発達と原則と影響因子 子どもの成長・発達のアセスメント 小児各期にける成長発達の特徴 遊びと学習 他者との関係思春期の特徴 虐待を受けている子どもと家族への看護 災害を受けた子どもと家族への看護	小児看護学 ①小児看護学概論 第1～第7章
小児看護学方法論Ⅰ	1	15	池田美由紀	子どもの健康維持増進・疾病予防のための保健活動について学ぶ	1. 母子保健法・学校保健施策・医療費の支援 2. 栄養と食生活 3. 生活リズムの確立 4. 事故防止と安全対策 5. 感染症と予防（予防接種） 6. セルフケア保健教育 7. 問題行動の防止	子どもと家族を取り巻く社会資源の活用 栄養と食生活 生活リズムの確立 事故防止と安全対策 感染症と予防 セルフケアと保健教育 問題行動の防止	小児看護学 ①第3～第5・第7章 小児看護学② 第19章
小児看護学方法論Ⅱ	1	8	保科隆男・北村容一郎	小児各期の疾患・症状・治療・検査について学ぶ	1. 小児各期の疾患・治療・検査 先天異常・代謝・内分泌・免疫・アレルギー・リウマチ・感染症・呼吸器・循環器・消化器・血液・造血器・悪性新生物・腎・泌尿器・神経・運動器・皮膚・眼・耳鼻科・精神	病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 急性症状のある子どもと家族への看護 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 周手術期における子どもと家族への看護 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族の看護 先天性疾患や慢性的な経過をとる疾患を持つ子どもと家族への看護 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護	小児看護学 ②第1章～第18章
		7	古澤美保	小児臨床看護の実際を学ぶ	1. 病気や診療・入院が小児及びきょうだい・家族に与える影響と看護 2. 急性期にある子どもと家族への看護 3. 慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 4. エンド・オブ・ライフにある子どもと家族の看護	出生直後から集中治療が必要な子どもと家族の看護 先天性疾患や慢性的な経過をとる疾患を持つ子どもと家族への看護 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護	小児看護学 ①小児臨床看護総論 第1・第3章・第5章 小児看護学 ②第1章～第18章
小児看護学方	1	30	福原眞記子	小児看護の実践の基礎を理解する	1. 地域における育児支援の方法 2. 心身障害のある子どもへの看護 3. 子どもとの信頼関係の基盤となるコミュニケーション 4. 小児の病気の理解と説明	病気に対する子どもの理解と説明 プレパレーション 痛みを表現している子どもと家族への看護 活動制限が必要な子どもと家	小児看護学 ①小児臨床看護総論 第2章・第4章・第6章・第7章・第8

法 論 Ⅲ					5. 小児のアセスメント・バイタルサインの測定・身体計測 6. 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 プレパレーション 7. 乳幼児の日常生活の援助の方法 8. 外来における子どもと家族への看護 9. 事例展開	族の看護 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 心身障害のある子どもへの看護 外来における子どもと家族への看護 小児特有の診療（検査・処置）に伴う技術と看護	章
小 児 看 護 学 実 習	2	90	福 原 眞 記 子	子どもと家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う	1. 保育所実習 2. 障害施設 3. 外来		

科目名	小児看護学概論		教育内容	専門分野 小児看護学
担当教員	福原 眞記子		単位（時間数）	1 単位 （30 時間） 1 年次後期
科目目標	1. 子どもとはどのような存在か、大人との違いについて理解する 2. 子どもの年齢区分と特徴について理解する 3. 子どもの成長・発達に影響する因子について理解する 4. 子どもを取り巻く社会の変化について理解する 5. 我が国の子どもの健康課題について理解する（虐待） 6. 子どもが健やかに成長・発達するための地域の支援活動について理解する 7. 子どもにとって家族・学校・地域・社会について考える 8. 子どもにとって遊びと学習の意義について理解する 9. 子どもの権利擁護（アドボカシー）について理解する 10. 小児各期の形態的・機能的・心の発達・社会性の発達について理解する（乳児期・幼児期・学童期・思春期） 11. 小児医療・看護の目的役割、活動の場について理解する			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1 2・3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15	小児看護学ガイダンス 子どもとは 子どもの特徴大人との違い 子どもの区分と特徴 子どもの出生に関する諸統計 国際社会の共通目標と健康課題 我が国の水準 海外との比較 尼崎市の実態 子どもの権利とアドボカシー 子どもに関する法律 子どもにとっての家族・地域・社会 成長発達の原則 成長発達に影響する因子 発達課題と発達理論 子どもの成長のアセスメント・発達検査 小児各期における成長発達の特徴 子どもにとっての遊びと学習 小児医療・看護の目的役割・活動の場		講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験、課題提出により評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] [2] 医学書院			

科目名	小児看護学方法論Ⅰ		教育内容	専門分野 小児看護学
担当講師	池田 美由紀		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間) 2 年次前期
科目目標	1. 子どもと家族を取り巻く社会資源の活用について理解する 2. 子どもにとっての栄養と食生活について理解する 3. 子どもにとっての生活リズムの確立の意義と発達について理解する 4. 子どもにとっての事故防止と安全教育について理解する 5. 小児感染症と予防について理解する 6. 子どものセルフケアと保健教育について理解する 7. 子どもの問題行動の防止について理解する			
科目構成	回数	科目内容	学習方法	
	1	母子保健施策の活用 小児保健医療施策の活用 小児慢性特定 疾病医療費助成制度	講義 演習	
	2	授乳 離乳 食生活 食育 食生活の乱れ		
	3	睡眠 生活リズム 基本的生活習慣の確立 ライフスタイル		
	4	事故防止 安全教育 スポーツ外傷の予防		
	5	小児期に特徴的な感染症 予防接種 学校感染症		
	6	齲歯・近視・生活習慣病の予防		
	7	喫煙・飲酒の防止 不登校の実態 いじめ 校内暴力の防止 自殺の防止 メディア利用の影響		
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕〔2〕 医学書院			

科目名	小児看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野 小児看護学
担当講師	保科隆男・北村容一郎・古澤美保		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間) 2 年次後期
科目目標	1. 小児各期におこりやすい疾患の病態・症状・診断・治療を理解する。 2. 小児に起こりやすい症状と看護について理解する 3. 入院・治療が子どもと家族に与える影響について理解する 4. 急性期にある子どもと家族への看護を理解する 5. 慢性的な疾患がある子どもと家族の看護について理解する 6. エンド・オブ・ライフにある子どもと家族への看護について理解する			
科目構成	回数	科目内容	講師	学習方法
	1～7	免疫アレルギー疾患 呼吸器疾患 感染症 眼・耳鼻 科疾患 血液・造血器疾患 悪性新生物	北村	講義
		腎・泌尿器疾患 内分泌疾患 消化器疾患 循環器疾患第 運動器疾患 神経疾患 皮膚疾患 先天異常 代謝性疾患	保科	講義

	8 9・10・11 12・13 14・15	病気・入院に対する子ども・家族の反応 病気・診療・入院に伴うストレス きょうだい・家族のストレスへの支援 急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 発熱・脱水・下痢・嘔吐・呼吸困難・けいれん 子どもの救急のトリアージと対応 誤飲・熱傷・溺水 BLS 子どもの手術の特徴 手術を要する健康障害と手術の時期 計画手術 緊急手術 日帰り手術 子どもと家族の術前準備 子どもの安全・安楽への援助 退院指導 子どもの疾患に対する家族の受容と援助 疾患による子どもと家族の生活の変化 多職種連携・地域連携 学習支援 復学支援 発達に応じたセルフケア能力の獲得・自立支援 移行支援（トランジション） 子どもの死の捉え方 死に対する子どもの反応 エンド・オブ・ライフにある子どもの心身の状態と緩和ケア 子どもの死を看取る家族の反応	古澤	講義 演習
評価方法	筆記試験により評価する。			
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] [2] 医学書院			

科目名	小児看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野 小児看護学
担当講師	福原 眞記子		単位（時間数）	1 単位（30 時間） 2 年次後期
科目目標	1. 地域における育児支援の在り方について考える 2. 心身障害のある子どもと家族の看護を理解する 3. 子どもと信頼関係の基盤となるコミュニケーションについて理解する 4. 検査や処置を受ける子どもと家族の看護（プレパレーションの実際）について理解する 5. 小児の看護技術の特徴について理解する 6. 乳幼児の日常生活の援助の方法について理解する 7. 外来における子どもと家族の看護について理解する 8. 小児特有の疾患をもつ子どもと家族への看護が理解できる			
科目構成	回数	科目内容	学習方法	
	1～3	地域における育児支援の在り方 ～心身障害のある子どもと家族の看護～ ～保育所の目的・役割・支援の実際～	講義	
	4～10	外来における子どもと家族の看護 子どもとのコミュニケーション 検査や処置を受ける子どもと家族の看護（プレパレーション） 病気に対する子どもの理解 痛みを表現している・活動制限が必要な・感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護	統合演習	
	11～12	小児の看護技術・乳幼児の生活援助 身体計測・バイタルサインの測定・点滴固定・介助・オムツ交換 抱っこ	演習	
	13～15	小児特有の疾患をもつ子どもと家族への看護		
評価方法	筆記試験、学習への参加度、課題提出により評価する			
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学[2] 医学書院 小児看護技術演習テキスト（学習ノート）へるす出版			

科目名	小児看護学実習	教育内容	専門分野 小児看護学（臨地実習）
担当教員	福原 眞記子	単位（時間数）	2 単位（90 時間） 3 年次通年

科目構成	<p>目的：子どもの成長発達を理解し、あらゆる健康段階にいる子どもと家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する子どもとの関わりから子どもの成長発達の特徴について理解する。 2. 成長発達過程にある子どもの日常生活を理解し、成長発達を育む支援の在り方について考えることができる。 3. 診療を受ける子どもと家族の反応を理解し、小児看護の役割について理解する。 4. 地域で生活する子どもと家族の関わりから自己の子ども観を養うことができる。 <p>構成、内容については実習要項参照</p>
実習施設	<p>保育所 小児外来 児童発達支援センター</p>
評価方法 評価基準	<p>小児看護学実習の評価表に基づき評価する。</p>
教科書・ 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学〔2〕 医学書院</p>

母性看護学

- 目標：１．看護の対象を母性の側面から理解する
 ２．人間のリプロダクションに対する理解を深める
 ３．ウェルネスの考え方を中心に妊娠分娩産褥に伴う看護方法を学ぶ
 ４．母性保健医療福祉に対する理解を深め看護者としての役割を養う
 ５．看護学生として母性看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準 中項目（キーワード）	教科書
母性看護学概論	1	15	和久田	母性看護の対象の特徴と看護の役割、性と生殖の意義について理解する。	1. 母性看護の基盤となる概念 2. 母性看護の対象の理解 3. 母性看護に必要な看護技術	法や施策： 妊娠期から切れ目のない支援、働く妊産婦への支援、女性の健康支援 概念：リプロダティブ・ヘルス、母性・父性・家族、女性や母子へのケア	母性看護学概論 第1章 第3章 第4章
母性看護学方法論Ⅰ	1	30	坂田	母子の健康の動向及び母子保健医療対策について学び、健康の維持・増進・疾病予防のための保健活動を理解する。	1. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状 2. 女性のライフステージ各期における看護 3. リプロダティブ・ヘルスケア	母子を取り巻く環境 思春期・成熟期女性の健康維持への看護、健康課題 更年期・老年期女性の健康と看護	母性看護学概論 第2章 第5章 第6章
				妊娠・分娩期の生理的变化や経過及び看護について理解する。	1. 妊娠期における看護 2. 分娩期における看護	正常な妊娠経過 妊婦への健康生活とアセスメント 正常な分娩の経過 産婦の健康に関するアセスメント	母性看護学各論 第2章 第3章 第4章
母性看護学方法論Ⅱ	1	30	角谷	産褥期及び新生児の生理的变化や経過及び看護について理解する。	1. 新生児期における看護 2. 産褥期における看護	妊婦と家族への看護 妊娠期のケアに必要な技術	母性看護学各論 第5章 第6章
				妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的变化をふまえ、必要な看護技術を習得する。	1. 看護過程の展開 「正常妊産婦・新生児の看護」 2. 技術演習 1) 妊娠期に必要な援助技術 2) 分娩期に必要な援助技術 3) 新生児期に必要な援助技術 4) 産褥期に必要な援助技術	産婦と家族への看護 正常な産褥の経過と産褥期の異常 産婦の健康と生活のアセスメント 産婦と家族への看護 早期新生児の生理的变化 早期新生児のアセスメント 早期新生児とその家族への看護	母性看護学各論 第3章 第4章 第5章 第6章

母性看護学方法論Ⅲ	1	30	坂根・谷口・飯田・石本	異常妊娠・異常分娩・異常産褥及び異常新生児の病態・治療と母子、家族に及ぼす影響について理解する。	1. 不妊治療 2. 妊娠の異常 3. 分娩の異常 4. 褥婦の異常 5. 新生児の異常	妊娠期の異常 分娩期の異常 産褥期の異常 早期新生児の異常	母性看護学各論 第1章 第7章
				ハイリスク及び異常妊婦・産婦・褥婦・やその家族への看護について理解する。	1. ハイリスク妊婦の看護 2 異常のある産婦の看護 3. 異常のある褥婦の看護 4. 異常のある新生児の看護 5. 精神障害合併妊婦と家族の看護	妊娠期、分娩期、産褥期、早期新生児の健康問題への看護	
母性看護学実習	2	90	角谷・日高	妊婦・産婦・褥婦および新生児の経過を通して対象の理解を深め、援助ができる能力を養う。	1. 産科外来・産科病棟 1) 生理的妊娠経過の観察と保健指導 2) 安全で安楽な満足した分娩を終えられるための看護 3) 褥婦・新生児の生理的経過の観察と家族を含めた看護 4) 母子に関連した諸制度と社会資源	目標Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ	母性看護学概論 母性看護学各論

科目名	母性看護学概論		教育内容	専門分野 母性看護学
担当教員	和久田 幸代		単位数(時間)	1 単位 (15 時間) 1 年次後期
科目目標	1. 母性の概念と母性看護の意義、母性の身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 2. 人間の性・生殖に関する特徴について、その形態・機能・性反応などから説明できる。 3. 母性看護に関する生命倫理の重要性について、理解できる。 4. 母性看護の変遷を知り、現代の母性看護のあり方について理解できる。			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1・2	母性の概念、リプロダクティブヘルス／ライツ 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状		講義
	3・4	母性看護学に関連する理論、考え方		
	5	母性看護における倫理的課題と責任		
	6	母性保険と母子保健の動向、母性保護と関連施策		
	7	女性・家族のライフサイクル/セクシュアリティの発達と健康問題		
	7. 5	終講試験		
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院			

科目名	母性看護学方法論Ⅰ		教育内容	専門分野 母性看護学
担当講師	坂田 富貴子		単位数(時間)	1 単位 (30 時間) 2 年次前期
科目目標	1. 健全な母性への準備と健全な家庭づくりへの看護について理解する。 2. 母性保健の動向と対策を理解する。 3. 妊娠・分娩の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 4. 正常な妊娠経過・分娩経過をたどるための看護を理解する。			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1	社会環境の変化と子産み・子育て 母性看護の現状と動向		講義
	2	家庭環境及び家族関係・役割／母性看護に関する組織と法律		
	3	周産期医療システムと母子保健施策		
	4	女性のライフサイクルと母性看護		
	5	成熟女性の看護 成熟女性の特徴／女性と結婚 家族計画と母子保健／女性と妊娠・出産・育児		
	6	リプロダクティブヘルスケア		
	7	更年期以降の女性の看護		
	8	1. 妊娠期における看護		
	9	1) 妊娠の生理/心理・社会的特徴		
	10	2) 妊婦と胎児のアセスメント		
	11	妊婦の健康管理と日常生活への看護		
	12			
	13	2. 分娩期における看護		
	14	1) 分娩の発生機序、進行		
	15	2) 分娩の進行に伴う看護		
	評価方法	1 回の筆記試験により評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 医学書院	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院		

科目名	母性看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野 母性看護学
担当講師	角谷典子		単位数(時間)	1 単位 (30 時間) 2 年次後期
科目目標	1. 産褥の正常な経過を理解する。 2. 新生児の生理と看護を理解する。 3. 妊婦・産婦・褥婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、看護を理解する。 4. 母性看護における看護過程の展開について、他の看護領域との共通性と異質性を理解し、各期のヘルスニードの視点でアセスメントができる。 5. 健康の維持増進や心身の満足につながる援助を含んだ看護計画が立案できる 6. 立案した看護計画に基づいて、基本的な看護技術が実施できる。			
科目構成	回数	科目内容	学習方法	
	1・2 3・4 5 6・7 8・9 10・11・ 12 13 14 15	妊娠期・分娩期・産褥期の正常な経過の理解 新生児期の正常な経過の理解 母性看護における看護過程の考え方 妊産褥期の援助技術 新生児期の援助技術 妊産褥期・新生児期のアセスメントと看護介入 妊産褥期・新生児期のアセスメントと看護介入 退院後の生活に向けた援助	講義 演習	
評価方法	1 回の筆記試験 と 1 回の技術試験「母性演習評価表」、看護過程の演習記録、出席点で評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院			

科目名	母性看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野 母性看護学
担当講師	飯田 浩史・谷口友基子・坂根理矢・石本 知加		単位数(時間)	1 単位 (30 時間) 2 年次後期
科目目標	1. 不妊治療を理解し、治療をうける人々の状況・状態におかれた援助について理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の特殊な状況・状態の概念を理解し、各々の状況・状態におかれた母子及び家族への援助について理解する。			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 8～15	1. 妊娠と不妊 2. 妊娠経過 I 妊娠経過 II 3. 異常妊娠と合併症妊娠 4. 分娩の経過 正常と異常 5. 産褥の経過 正常と異常 (分娩監視装置含む) 6. 産褥と新生児 新生児の異常 1. ハイリスク及び異常妊婦・産婦・褥婦の心理と看護 2. ハイリスク状態の新生児の看護	坂根 谷口 飯田 石本	講義 講義
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院			

科目名	母性看護学実習	教育内容	専門分野 母性看護学（臨地実習）
担当教員	角谷典子・日高 太圭子	単位数(時間)	2単位（90 時間） 3 年次
科目目標	<p>（目的） 妊婦・出産・育児にかかわる女性の健康課題を理解し、家族を含めた看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特徴を理解し、家族を含めた対象の看護を学ぶ。 2. 周産期からウィメンズヘルスへ広がる考え方を意識し看護の役割を学ぶ。 <p>構成、内容については実習要項参照</p>		
実習施設	病院病棟、外来クリニック・地域		
評価方法 評価基準	母性看護学実習の評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院 その他、実習状況に合わせて既習学習した教科書、資料、文献を活用する		

精神看護学

- 目標： 1. 精神に障害を持つ人と家族について理解する
 2. 人間の心を理解し、精神障害に対する理解を深める
 3. セルフケア理論を中心に精神・問題行動に対する看護方法を学ぶ
 4. 精神保健医療福祉に対する理解を深め看護者としての役割を養う
 5. 看護学生として精神看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準 中項目（キーワード）	教科書 （予定）
精神看護学概論	1	15	垣内満美子	こころの発達と健康について理解し精神看護学の構成と精神看護の機能と役割を学ぶ	1. こころとは こころを病むとは ストレスと防衛機制・発達課題 こころを病む対象への看護ケア 2. 精神看護の目的・対象・特徴 精神看護における倫理 3. ケアを必要とする状況	精神の健康の概念 脳の仕組みと精神機能 心の機能と発達 危機 防衛機制	精神看護学① 1～4・7章 精神看護学 8章
精神看護学方法論Ⅰ	1	30	大西恵	こころの健康の保持、増進に対する基礎的知識を学び看護で活用する方6.法について理解する	1. 長期入院患者の地域移行支援の展開 2. SSTについて 3. 認知行動療法について 4. 入院形態・気分障害の理解 5. 発達障害の理解・摂食障害の理解 6. トラウマインフォームドケア・統合失調症患者の行動特性 7. オープンダイアログ 8. コンコーダンススキルの紹介と実践 9. ケアの前提・ケアの原則 10. ケアの方法 11. 地域移行支援の実際 12. リフレーミングについて 13. WRAP 体験 14. 障害者福祉サービスについて 15. まとめ	精神保健福祉の変遷と看護 精神の健康に関する普及啓発 精神の健康とマネジメント 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律＜精神保健福祉法＞ 知的障害＜精神遅滞＞ 患者の権利擁護＜アドボカシー＞ 心理的発達の障害 精神保健福祉に関する社会資源の活用 社会資源の活用とケアマネジメント コンサルテーションと連携 災害時の精神保健	別巻 精神保健福祉
精神看護学方法論Ⅱ	1	30	赤嶺秀明	精神障害のメカニズムを考え主な疾患の病態・治療と生体に及ぼす影響について学ぶ	1. 精神症候学 総論 2. 統合失調症 3. 気分障害 4. 認知症 5. 不安障害・強迫性障害・解離性障害・身体表現性障害・依存症ほか 6. 薬物治療・薬理作用・副作用 7. 精神症状と状態像の理解 8. おもな精神科治療	症状を含む器質性精神病 精神作用物質使用による精神・行動の障害 気分＜感情＞障害 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 パーソナリティ障害 習慣及び衝動の障害 小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害 安全管理	精神看護学① 5・6章 精神看護学② 12章

			上田貴紀	精神に障害のある患者や家族への援助に必要な知識・技術を学ぶ	1. 精神療法・精神科で出会う人々 主な精神疾患の理解 2. 精神科における看護の役割 3. 入院治療の意味を理解する 4. 安全を守る・治療的環境を作る 5. 緊急事態に対処する CVPPP 6. 疾患症状に対する看護	援助関係の構築 セルフケアへの援助 家族への看護 社会復帰・社会参加への支援	精神看護学② 9～12章
精神看護学方法論Ⅲ	1	30	垣内満美子	精神に障害を持つ人を理解し、必要な看護技術を修得する	1. 精神科における自己洞察の意義と方法について理解する。 2. 精神症状を持つ患者の看護過程の展開について理解する。 3. 精神症状を持つ患者に必要な看護技術について理解する。	生きる力と強さに着目した援助 身体状態に関する看護	精神看護学① 7章 精神看護学② 8・13～ 16章 他
精神看護学実習	2	90	垣内満美子	精神に障害を持つ人の特性をふまえて対象との関係を形成し、健康障害や回復過程に応じた看護を展開する能力を養う。	1. 精神看護学実習における学び方、自己学習の方法がわかる。 2. 精神に障害がある人の生活自立にむけた看護がわかる。 3. 精神に障害がある人の事例から看護過程が展開でき、課題学習を実施し実習の総まとめができる。 4. 地域で生活する人の支援の実態を理解する。	多職種連携と看護の役割 社会資源の活用とケアマネジメント コンサルテーションと連携	

科目名	精神看護学概論		教育内容	専門分野 精神看護学
担当教員	垣内 満美子		単位数 (時間)	1 単位 (15 時間) 1 年次後期
科目目標	1. 精神看護の目的と意義について理解する。 2. 精神看護の対象とその理解方法について考えることができる。 3. こころの発達と健康について理解する。 4. 精神看護におけるケア理論と相互関係について理解する。 5. 精神看護における倫理と法律について理解する。			
科目構成	回数	科目内容		学習方法
	1～3 4～5 6～7	こころとは こころを病むとは こころを病む対象への看護ケア ストレスと防衛機制・発達課題 精神看護の目的・対象・特徴 プロセスレコードについて ケアを必要とする状況 精神看護における倫理 (法律) まとめ		講義
評価方法	1 回の筆記試験と提出課題により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [1] 精神看護の基礎	医学書院
	系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [2] 精神看護の展開	医学書院

科目名	精神看護学方法論Ⅰ		教育内容	専門分野 精神看護学
担当講師	大西 恵		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間) 2 年次前期
科目目標	1. 精神医療保健に係わる法制度と現代社会における精神保健医療福祉活動について理解し、こころの健康の保持増進に対する基礎的知識を習得する。 2. 保健医療福祉の総合的視点から現代社会のアルコール・薬物依存症、災害・ジェンダーなどの精神的諸問題について理解する。			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法

	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13・14 15	長期入院患者の地域移行支援の展開 SST について 認知行動療法について 入院形態・気分障害の理解 発達障害の理解・摂食障害の理解 トラウマインフォームドケア・統合失調症患者の行動特性 オープンダイアログ コンコーダンススキルの紹介と実践 ケアの前提・ケアの原則 ケアの方法 地域移行支援の実際 リフレッシングについて WRAP 体験 障がい者福祉サービスについて まとめ	大西	講義
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院			

科目名	精神看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野 精神看護学
担当講師	赤嶺 秀明 ・ 上田 貴紀		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間) 2 年次後期
科目目標	1 精神障害のメカニズムを考え主な精神疾患の病態・精神症状と状態像を理解する 2 精神科治療とアプローチの方法について理解し、生体に及ぼす影響について理解する 3 日常生活行動と精神の健康問題、問題状況時の援助について、必要な知識・技術を理解する			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7	精神症候学 総論 統合失調症 気分障害 認知症 不安障害・強迫性障害・解離性障害・身体表現性障害・依存症ほか 薬物治療・薬理作用・副作用 精神療法	赤嶺	講義
科目構成	8 9 10 11 12 13 14 15	精神科における看護の役割：入院治療の意味を理解する 安全を守る・治療的環境を作る 緊急事態に対処する CVPPP 疾患症状に対する看護（統合失調症・知覚・妄想） 疾患症状に対する看護（不安・パニック（強迫症）） 疾患症状に対する看護（うつ病・双極性障害） まとめ	上田	講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 その他演習状況に合わせて既習学習した資料・文献を活用する			

科目名	精神看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野 精神看護学
講師教員	垣内 満美子		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間) 2 年次後期
科目目標	1 看護実践における自己洞察の意義と方法について理解する 2 精神症状を持つ患者の看護過程の展開について理解する 3 精神症状を持つ患者に必要な看護技術について理解する			
科目構成	回数	科目内容	学習方法	
	1～4 5～9	1. 精神科におけるコミュニケーション技法とプロセスレコード 2. 精神疾患をもつ人の生活変化を中心とした看護過程の展開 1) 統合失調症の消耗期にある患者の看護 2) 統合失調症急性期の患者の看護 3) そううつ病の患者の看護（そう状態）	講義 演習	

	10～13 14・15	4) そううつ病患者の看護（うつ状態） 3. 精神看護技術と問題行動への関わり（精神科急性期看護技術） 今までの成果、演習を通して発表・評価	
評価方法	1回の筆記試験、各提出課題、上記1. 2. 3の個人の記録により評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 その他演習状況に合わせて既習学習した資料・文献を活用する		

科目名	精神看護学実習	教育内容	専門分野 精神看護学（臨地実習）
担当教員	垣内 満美子	単位数（時間）	2単位（90時間）3年次前期
科目目標	（目的）精神に障害をもつ人の特性をふまえて、対象との関係を形成し、健康障害や回復過程に応じた看護を展開する能力を養う。 （目標）1. 精神に障害がある人に対する理解を深め、その対象との関わりを通して、日常生活の自立にむけての看護を学ぶ。 2. 精神に障害をもちながら地域で生活している人を理解し社会支援の実態を理解する。 3. 精神に障害がある人との関わりを通して、自己洞察をして相互作用を学ぶ。 構成、内容については実習要項参照		
実習施設	病院病棟、作業所（就労継続支援B型事業所、地域活動支援センター）		
評価方法	精神看護学実習の評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 その他実習状況に合わせて既習学習した資料・文献を活用する		

看護の統合と実践

- 目標：1. チーム医療・多職種との協働の中で、組織の中での看護師の役割を理解し、看護管理の基礎的知識を習得する。
2. 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。
3. 安全な医療の提供に向けて、リスクセンスを高め判断力を養う。
4. 災害医療・災害看護に関する基礎的知識を習得する。
5. 国際社会での諸外国との協力について考えることができる。
6. 複数の事例を通して知識・技術の総合的な判断を学び、対象者に応じた看護を実践する能力を養う。

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	国家試験出題基準 中項目（キーワード）	教科書
医療安全と看護	1	30	蒲生原	看護における医療安全を再認識し予防・回避行動を考える。	1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 医療安全の知識・心構え（SBAR） 3. リスク分析の意義と手法（RCA分析） 4. リスク分析の意義と手法（KYT） 5. リフレクションとは 6. 看護業務上の危険と防止策 ロールプレイ発表まとめ発表 7. 看護の現場で起こりうる医療事故を学ぶ① （安全管理：外部講師） 8. 看護の現場で起こりうる医療事故を学ぶ② （感染予防：外部講師） 9. 多重課題について	医療安全を維持する仕組みと対策 看護業務のマネジメント	看護の統合と実践 医療安全 全章 看護管理 第5章
災害と国際看護	1	30	西村・中野	基本的な災害看護の知識と技術を理解する。 グローバル化を視野に入れた国際社会における看護について理解する。	1. 災害看護学 災害医療・看護の基礎知識 2. 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とところのケア 3. 防災特別講義 4. 防災センター見学 5. 国際看護学 国際看護学とは、グローバルヘルス 国際協力のしくみ、文化を考慮した看護 国際看護活動の展開過程、開発協力と看護 国際救援と看護、21世紀の国際協力の課題	災害時の医療を支えるしくみ 災害各期の特徴と看護 グローバル化に伴う世界の健康目標と課題 グローバルな社会における看護 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学 全章
多職種連携と看護	1	30	蒲生原他	保健・医療・福祉の統合が進む社会状況において、専門的立場からのサービス提供と各職種が連携、協働し総合的支援の必要性がわかり、多職種の専門性理解と職務の関連性や連携の在り方を学ぶ。	1. 看護マネジメントの変遷と考え方 2. キャリアデザインとは 3. 看護ケアマネジメントと看護職の機能 兵庫県看護協会ナースセンター講義 4. チーム医療とはチームマネジメント 外部講師 5. コーチングとは（看護部長①） 6. 看護職の責任と役割 病院看護管理者講義（看護部長②） 7. 多職種との連携、協働① 8. 多職種との連携、協働②演習 9～15 多職種（理学療法士）との協働演習 準備、まとめ、発表	看護におけるマネジメントの目的と方法 医療・看護における質の保証と評価、改善の仕組み 看護業務に関する情報に係る技術と取り扱い 看護師の働き方のマネジメント A～Dを促進するための多職種連携	看護の統合と実践 看護管理 全章

看護実践と技術の統合	1	30	蒲生原	看護実践力に必要な知識・技術・態度を統合し、看護をマネジメントする基礎的能力における自己の課題を明確にする。	1. 技術実践の到達度確認 2～5 複数事例の情報分析と計画立案 グループワーク、個人ワーク 6～9 複数事例の状況に応じたケアの優先順位 治療内容、看護援助、感染予防 重症度等の視点で検討 10～13 ケアの実施とリフレクション 多重課題に対する自分の傾向を知る 14、15 技術試験	対象や家族に切れ目のない支援を提供するための継続した看護 複合的な状況にある対象や、複合的に提供されている看護の状況を判断し危険を回避する取り組み 看護の提供者が看護場面において自身の安全を確保するための総合的な判断や対応	看護の統合と実践 医療安全 全章 看護管理 全章
統合実習	2	90	蒲生原	既習の基礎的知識と技術を統合し、チームアプローチの視点で看護師に求められる実践能力を考察する。	1. 複数受持ちをグループで体験し、看護実践における連携の重要性を理解する。 ①病棟におけるチーム連携の実践がわかる。 ②グループで複数患者に必要な看護援助を計画する。 ③メンバー間で連携しながら必要な看護を実践する。 ④実践した看護を評価しタイムリーに共有する。 2. 看護チームの一員として与えられた役割を実施し、自己の特徴を振り返る。 ①自己の役割がわかり行動できる。 ②報告、連絡、相談の重要性がわかる。 ③日々のリフレクションから自己の課題を明確にする。 3. 終末期医療における看護の実践を学ぶ。 ①緩和ケア病棟に入院する患者・家族に必要な観察と援助がわかる。 ②緩和ケア病棟で患者・家族を支える看護師の関りと役割がわかる。	目標Ⅰ～Ⅳすべて	看護の統合と実践 医療安全 全章 看護管理 全章

科目名	医療安全と看護		教育内容	専門分野 看護の統合と実践	
担当教員	蒲生原 千代		単位（時間）	1 単位（30 時間） 2 年次後期	
科目目標	1. 医療事故の概念を理解する。 2. 医療安全とリフレクションやコミュニケーションの関連を理解する。 3. リスク分析の意義と手法を理解する。 4. 医療事故防止のための施設における実際の取り組みを理解する。				
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法	
	1	医療安全を学ぶことの大切さ	蒲生原	講義 演習	
	2	医療安全の知識・心構え（SBAR）			
	3・4	リスク分析の意義と手法（RCA 分析）			
	5～8	リスク分析の意義と手法（KYT）			
	9・10	リフレクションとは			
	11	看護業務上の危険と防止策			
	12	ロールプレイ発表まとめ発表			
	13	看護の現場で起こりうる医療事故を学ぶ① （安全管理：外部講師）	外部講師		
14	看護の現場で起こりうる医療事故を学ぶ② （感染予防：外部講師）	外部講師			
15	多重課題について				
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。				
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院 医療安全ワークブック 医歯薬出版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領 照林社 医療安全とリスクマネジメント ニューヴェルヒロカワ				

科目名	災害と国際看護	教育内容	専門分野 看護の統合と実践
担当教員	西村理恵・中野恵	単位（時間）	1 単位（30 時間） 3 年次前期

科目目標	1. 基本的な災害看護の知識と技術を理解する。 2. グローバル化を視野に入れた国際社会における看護について理解する。			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
	1 2 3 4	災害看護学 災害医療・看護の基礎知識 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア	西村	講義
	5	特別講義		
	6 7	防災センター見学		
	8 9	国際看護学 国際看護学とは、グローバルヘルス	中野	講義
	1011	国際協力のしくみ、文化を考慮した看護		
	1213	国際看護活動の展開過程、開発協力と看護		
	1415	国際救援と看護、21 世紀の国際協力の課題		
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書・参考書	系統看護学講座	専門分野 看護の統合と実践[3]	災害看護学・国際看護学	医学書院
	系統看護学講座	専門 看護学概論	基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ	医学書院

科目名	多職種連携と看護		教育内容	専門分野 看護の統合と実践
担当教員	蒲生原 千代他		単位（時間）	1 単位（30 時間）3 年次後期
科目目標	1. 看護をマネジメントする基礎的知識を理解する。 2. 組織と看護管理について理解する。 3. 多職種連携について考え、多職種の役割および看護師の役割がわかる。			
科目構成	回数	科目内容	担当	学習方法
	1	看護マネジメントの変遷と考え方	蒲生原	講義
	2	キャリアデザインとは	蒲生原	
	3	看護ケアマネジメントと看護職の機能 兵庫県看護協会ナースセンター講義	ナースセン ター講師	
	4	チーム医療とは、チームマネジメント 学術博士号取得講師講義	日本赤十字 非常勤講師	
	5	コーチングとは 専門看護師講義	病院看護部 長①	
	6	看護職の責任と役割 病院看護管理者講義	病院看護部 長②	
	7	多職種との連携、協働①	蒲生原	
	8	多職種との連携、協働②演習		
	9～	多職種（理学療法士）との協働演習	大阪履正社	
	15	準備、まとめ、発表	講師	
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院			

科目名	看護実践と技術の統合	教育内容	専門分野 看護の統合と実践
担当講師	蒲生原 千代	単位数 (時間)	1 単位 (30 時間) 3 年次前期
科目目標	1. 看護実践に必要な知識・技術・態度を統合し、今後の課題を明確にする。 2. 安全性・正確性・効率性を考えた看護実践力を振り返り、自己の課題を明確にする。 3. チームで連携・協働して看護ケアの優先順位を考えた看護実践ができる。 4. チームで連携・協働することでチームに必要なメンバーシップを考える。		
科目構成	回数	科目内容	学習方法

	1 2～5 6～9 10～13 14、15	技術実践の到達度確認 複数事例の情報分析と計画立案 グループワーク、個人ワーク 複数事例の状況に応じたケアの優先順位 治療内容、看護援助、感染予防、重症度等の視点で検討 ケアの実施とリフレクション 多重課題に対する自分の傾向を知る 技術試験	講義 演習
評価方法	1回の筆記試験、実技試験「評価表」、出席点、提出課題により評価する。		
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院 看護技術プラクティス 学研 医療安全ワークブック 医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領 照林社 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 その他、既習の教科書、資料、文献を活用する		

科目名	統合実習	教育内容	専門分野 看護の統合と実践（臨地実習）
担当教員	蒲生原 千代他	単位（時間）	2単位（90時間）3年次後期
科目目標	（目的）既習の実習で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護実践力を身につける。 （目標）1. 複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性が理解できる。 2. 看護チームのメンバー、リーダーの役割を理解することができる。 3. 病棟・施設における看護管理の実践について理解する。 4. 終末期医療における看護の実践を学ぶ。 5. 実務に即した看護実践力について評価し、自己の課題を明確にできる。 構成、内容については実習要項参照		
実習施設	病院病棟、外来クリニック		
評価方法 評価基準	統合実習の評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院 医療安全ワークブック 医歯薬出版 看護技術プラクティス 学研 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 症状からみる看護過程の展開 NANDA－Ⅰ 看護診断 その他、実習状況に合わせて既習の教科書、資料、文献を活用する		